海辺の館

楽問（がくもん）のススメ

～生き物たちの楽問～

頭のよい生き物たち

みなさんは、このコーナーのテーマにある「楽問」（楽しく学ぶ、という意味の造語）という言葉を聞くと、「学問」を連想しませんか。何しろ私は勉強が大嫌いで、自慢ではないですが、記憶力はクラゲ並みです。

仕事場でも「もっといろいろ勉強しなさい」と、上司にしょっちゅう言われているほど勉強嫌いですし、学ぶことが楽しいことだなんて、思ったこともほとんどありませんでした。

しかし、「楽問」という言葉を頭に置きながら水族館内を歩いてみると、水族館にいる魚たちも、いろんなところでちゃんと「楽問」していることに気付きます。

例えば、えさの時間になると、魚たちはエサがもらえる場所を知っていて、飼育員が近くに来るとみんなでその場所へ集まってエサをねだります。

普段、ドーンと横たわっているデンキウナギは、お腹が空くと水槽の角に立ち上がります。これは彼が自分で考え、覚えた「お腹が空いた、えさが欲しい」のサインなのです。

パイプの前で1日中くつろぐコバンザメ

回遊水槽にいるコバンザメは、水槽内の環境を学習し、ろ過された新鮮な水が噴き出す底面のパイプ前に自慢の吸盤で張り付き、一日中動きません。

ひっくり返ってここにいれば、エラを動かしたり泳いだりしなくても、自動的に口の中に新鮮な水が入ってくるので、楽チンで気持ちがいいのです。いわば、私たちが、夏の暑い日に、クーラーの前で寝転がっているようなものですね。

そしてアシカたちに至っては、学ぶ楽しみを極めています。彼らはショーの種目を自分の興味で学習し、トレーナーと一緒に楽しみながらショーや練習をやっています。興味がなかったり、やりたくないものには関心を示さず、ひどいときにはプールへ逃げてしまったりもします。そして、トレーナーの顔色をうかがいながら、これまでの経験と重ね合わせて、どこまで逃げるのが許されるか、どの辺りでひどく注意されるのか、どうすればトレーナーがあきらめてエサをくれるのかも、ちゃんと考えて行動しているようです。

アシカの「ナナ」は楽しみながら種目を学び、ショーをしています

当然、信頼している人とでなければ種目は何もしませんし、プールから上がってくることすらしません。賢いアシカたちは、人によって行動をはっきり変えたり、本番と練習では違った行動をすることもあります。時には、練習では何の問題もなく芸をしていたのに、